

1 単元 国民生活と福祉

2 単元の目標

- (1) 国や地方公共団体の経済活動に関心をもち、租税の意義と役割、社会保障制度やその問題点を意欲的に追究しようとする。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について、多面的・多角的に考察し、様々な観点や立場から公正に判断することができる。(社会的な思考・判断・表現)
- (3) 国や地方公共団体の財政に関する資料を、新聞記事などから集め、必要な情報を読み取ることができる。(資料活用の技能)
- (4) 財政を支える租税の意義と、国民の福祉を実現するうえでの租税の役割について理解するとともに、国民が納税の義務を果たすことの必要性を理解することができる。(社会的な事象についての知識・理解)

3 単元の評価規準

社会的な事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的な事象についての知識・理解
消費増税の問題を通して、政府の経済活動に関心を持ち、財政上の課題などについて意欲的に追究している。	消費増税に関して、少子高齢化など現代社会の特色をふまえ、日本の税制、社会資本、社会保障制度、国債などの観点から多面的・多角的に考察し、賛成と反対の立場を踏まえ、自分の考えを根拠を明確にして適切に表現している。	国の歳入歳入、国債など、財政に関する資料を、様々な情報手段を活用して収集・選択し、読み取ったことや考えたことをまとめている。	公債発行の増加、少子高齢化の社会保障の充実、歳入増などの財政上の課題について理解する。 国民の生活と福祉の向上を図るために政府が果たしている役割について、調査を通じて具体的に理解し、その知識を身に付けている。

4 単元の指導について

本単元では、社会保障や租税など、国民生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について学ぶ単元である。少子高齢化が進む日本では、福祉や租税についてどうあるべきかを考えることは、将来を担う生徒たちにとって、とても重要である。

本学級の生徒は、公民的分野の学習に意欲的に取り組む生徒が多い。模擬選挙や模擬裁判などでは、進んで自分の考えを発言することができていた。しかしながら、資料から読み取った情報を基に、根拠を明確に自分の考えを表現することを苦手とする生徒が多くいる。

そこで、指導に当たっては、生徒にとって身近な消費税を取り上げる。「消費税は本当に10%にする必要があるかどうか」という単元を貫く課題を設定し、生徒に社会のしくみに対しての関心を高めたい。この課題に取り組み、様々な資料を適切に収集・選択させ、情報を正確にとらえさせたい。そして、資料を多面的・多角的に考察させ、公正に判断させるとともに、自分の考えを適切に表現する態度と能力を育てたい。

そのために、本時までの授業の中で、消費税を増税することの利点と問題点が読み取れる資料を準備し、消費税増税の利点と問題点を明らかにする授業を行っていく。そして、本時ではツールミンモデルを取り入れたワークシートを活用し、思考を整理させる。

以上のような学習活動を通して、資料を基に、根拠を明確にして、自分の考えを表現できる力を育ませたい。

5 指導計画 (9時間取扱い)

時	学習活動・内容	関心	思考	資料	知識	観点別評価規準
1	・税金の種類とその特徴について知る。 ・単元を貫く課題「消費税は本当に10%にする必要があるかどうか」を設定する。	●			●	・税金の種類と特徴から、その役割と現在の問題点を理解している。 ・消費税を10%に増税するかどうかについて、意欲的に自分の考えを表現しようとしている。
2	・政府の経済活動と租税について知る。				●	・公債発行による効果と問題点について理解している。

3	・景気変動が国民生活に与える影響について考える。	●	・政府が景気変動を調整していることを理解し、景気変動が国民に与える影響について考える。
4	・日本の社会保障制度について知る。	●	・社会保障制度の意味や、日本の社会保障制度について理解している。
5	・少子高齢化が進むと、日本の財政が厳しくなっていくことを、資料から読み取る。	●	・新聞記事や資料から、少子高齢社会が進むと、社会保障費が増え、自分たちの負担が増えることを読み取っている。
6	・公害の防止と環境の保全についての取り組みについて知る。	●	・政府が行っている公害防止や環境保全への取り組みについて、理解している。
7	・資料から、消費税を増税することと増税しないことのメリットとデメリットをマトリクスにまとめる。	●	・資料から消費税を増税することの利点と問題点を読み取っている。
⑧・9 本時	・消費税は本当に10%にする必要があるかについて、根拠を明確にして自分の考えを表現する。	●	・複数の資料を基に、根拠を明確にして自分の考えを表現することができる。

## 6 本時の学習

### (1) 目標

消費税増税が本当に必要かどうかについて、複数の資料から読み取った情報を基に、根拠を明確にして、自分の考えを表現することができる。

### (2) 準備・資料

教科書、ワークシート、資料集

### (3) 展開 (1/2)

学習活動・内容	指導上の留意点・評価 (⑧は評価)
<p>1 課題を確認する。</p> <p>(1) これまでの学習を振り返り、消費税増税による影響やメリット、デメリットなどを確認する。</p> <p>(2) 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>消費税を10%に増税することに賛成か、反対か自分の意見を表現しよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習内容と単元を貫く課題への判断を振り返る。</li> <li>・ツールミンモデルを取り入れたワークシートを使って、学習課題を捉えさせる。</li> </ul>
<p>2 消費税を10%に増税することに賛成か反対かどうかについて考える。</p> <p>(1) 個人で第1次判断を行う。</p> <p>(2) 少人数で話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達が納得できるように根拠を示して発表できるように助言する。どちらかの意見に偏ってしまった場合には、授業者が反対の意見にまわり、異なる考え方を示し、多面的・多角的に考察できるようにする。</li> <li>・根拠を示すことができない生徒は、賛成か反対かの判断のみをし、友達の根拠を参考にするように支援する。</li> </ul>
<p>3 ワークシートに、消費税を10%にすることが、必要かどうかの最終判断をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に番号をふり、ワークシートに記入させることで、どの資料から、自分の意見を導き出したかが分かるようにする。</li> <li>・伝え合ったことを基に、最終的に自分の考えをまとめられるようにする。</li> <li>⑧消費税を増税することが本当に必要かどうかについて、資料から読み取った情報を基に、根拠を示して、自分の意見を表現することができる。 (思考・判断・表現、ワークシート)</li> </ul>
<p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返るとともに、本時のワークシートを基に、次時では発表することを確認する。</li> </ul>